

38. 名張の気象



名張市街地

名張市は紀伊半島のほぼ中央部、三重県西部に位置し、奈良県に接する人口約8万の自然豊かな町です。四方を山で囲まれた盆地になっています。そのため、名張市は盆地特有の内陸性気候を示します。

1. 名張の気候の特徴

(1) 名張市は雨が少ない

内陸性気候の特徴は、まず1年間を通して降水量が少ないことです。名張市の年間降水量は1367mm（平均値）です。平野部に位置する津市の1581mm（平均値）と比べて少ないことが分かります。名張市は伊賀市と並んで県内で一番雨の少ない地域になります。雨の多いことで知られる尾鷲市の約3分の1です。

(2) 盆地の夏は暑く冬は寒い

内陸性気候のもう一つの特徴は、夏の最高気温と冬の最低気温の差（年較差）が大きく、夏は暑く冬は寒いことです。また、1日の最高気温と最低気温の差（日較差）も大きいのが特徴です。昼は気温が高くても夜になれば急に低くなります。



濃霧の市内

名張市は四方が山で囲まれているので、風は山にさえぎられ平野部に比べ弱くなります。昼は谷から山の方へ風が吹く谷風が発生します。その空気を補うように上空から下降流が発生します。この下降流がさらに気温を上昇させるので盆地の夏は暑くなります。夜は昼間と反対に山の斜面で冷やされた空気が山から吹きおろしてくる山風が発生します。その冷たい空気が谷底にたまり、夜間の気温低下（放射冷却）をいっそう強めるため平野部に比べ気温は低くなります。盆地の冬は、冷気が底にたまりやすく、移動性高気圧におおわれたときなど夜間の気温低下で放射霧が発生しやすくなります。

(3) 盆地の気候を利用して

名張市の平たん部には田園が広がっています。青蓮寺地区や美旗地域ではぶどう栽培も行われています。盆地特有の寒暖差の大きい気候が、おいしい米や甘くておいしいぶどうを育てるのです。また、豊かな自然環境を利用して古くから酒造りも行



市内の田園風景

おいしい米【→P10】

われてきました。名張市の冬は寒く、最低気温は氷点下に達します。滝の水が凍る氷瀑も見られます。この寒い気候が酒造りにも適しています。また、きれいな水が豊富にあり、良質の酒米も収穫されています。名張市の豊かな自然環境が名酒を生んでいるのです。



千手滝の氷瀑

2. 名張の環境の変化

夏の暑い日などに光化学スモッグが発生して、目やのどが痛くなることがあります。光化学スモッグは、自動車の排気ガスなどに紫外線が作用して発生します。特に名張市や伊賀市のような盆地は気温が高くなりやすく、風も弱いことから発生しやすくなります。発生すれば屋外での過激な運動はさなければなりません。

また、熱帯から亜熱帯に生息する毒グモの一種で、背中赤い斑点が特徴のセアカゴケグモが名張市内でも見つかっています。さらに、比較的暖かい地方に生息し、乾燥を好むクマゼミの声が、市内でも聞かれるようになりました。いずれの生物も市内の環境に適応し始めているのです。

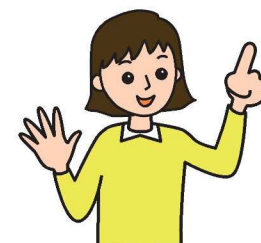
3. 名張の天気ことわざと天気予報

市内には多くの天気ことわざが残されています。その一つに、「青蓮寺雲や、ええ天気や」というのがあります。市の南側に位置する青蓮寺地区の上空には綿雲（晴天積雲）がいくつ浮かんでいて、北よりの風によって南の方向へ流れていきます。このような積雲が見られるときは、移動性高気圧が西から近づいているときで、天気が良くなるのでこう言わ



青蓮寺雲とよばれる晴天積雲

れます。また「天神雲は雨」ということわざも残されています。西から低気圧が接近してくると、低気圧の東側では、なみかぜ（東風又は南風）が吹きます。この風によって、北の方向に積雲などが流されていきます。市内ではこのような雲を天神雲と呼んでいて雨を知らせる雲になります。天神雲の名称は市内の北側に天神さん（菅原道真を祀っている杉谷神社）があることから、この方向に見られる雲につけられたものと思われる。



- ・盆地の年較差や日較差が大きいことをアメダスデータを使って調べてみましょう。
- ・市内でクマゼミの声が聞かれるようになり、セアカゴケグモも見つかっています。気温との関係を調べてみましょう。
- ・市内にはたくさん天気に関することわざが残されています。どんな天気のことわざがあるのか調べてみましょう。

名酒【→P14】
杉谷神社【→P53】